

# 静岡大学理学部同窓会会報

NO. 1

## 理学部同窓会設立にあたって

同窓会会長 赤池 大樹



静岡大学理学部が文理学部から独立新学部としてスタート致しましたのは、昭和四十年四月のことです。

当時大学は大岩(臨濟寺前)にありまして。他に人文学部、教育学部、法経短大がありました。定員が増えたためか校舎が不足プレハブ

の教室で学んだ記憶がございます。大岩地区より片山地区への統合移転が昭和四十二年四月の教養部校舎完工を皮切りに始められました。丁度このころ全国的規模での大学紛争が起りいろいろと大変であったと思います。理学部棟には四年生の一年間大岩から片山まで通いました。まだ、校舎は増築中で今のように立派な学園になるとは想像も出来ませんでした。以来二十年卒業生も今年で十七回三千名近くに達します。現在

は地球科学科も新設されており数、物、化、生と計五学科定員一八〇名の充実した学部として存在しております。文理学部の同窓会はその後人文学部の同窓会へと引き継がれましたが理学部にはありませんでした。数年前から同窓会設立を望む声がおこってきました。しかし卒業生の消息が全くつかめていない学科もあり名簿を作るのに大変な苦勞と費用を要しました。はじめのころは四、五人の集りでしたが徐々に人員も増え

同窓会というのは一般会員にとつては楽しくもあり役に立つ会でありますが、運営される役員にとつては会員の移動の把握や会費の徴収だけでも難事であり、大変な苦勞が予想されます。ここまでごごつけられました。ご苦労に感謝するとともに今後よろしくお願ひ申します。

静大に来て十八年がたつはじめの三年は教育学部にいたが、縁があつて理学部でも授業をもつていた。地球科学科は十年前に一回生を迎えた。この学科がなかった赴任当時、地学履修コースの三年生(理学部一回)が二人いた。二人は、化学科の湯佐泰久君と生物学科の加藤和男君(現副会長)で、特に地学の勉強を志したのだった。ほかに文理学部の学生が数人、地学を専攻していた。理学部と理学部の学生は一緒に授業に出ていたのである。このように、理学部は文理学部(理科)と縁が深く、したがって理学部の前身である旧制静岡高にもつながっている。

## 同窓会への期待

理学部長 長 沢 敬 之 助



先般理学部に同窓会が設立され、このたびその会報

の第一号が発行されることになりました。これは同窓会にたいへん歓迎です。同窓会というものは同窓生が旧交を暖め懇親をはかる場であり、また、とくに大学の場合、同窓生は社会に出てからの活躍の場が互いに近縁なので、同窓会はそのような社会で

の活躍のためにも大いに重要であります。この同窓会の発展が静大理学部同窓生の社会での活躍のことに役立ってくれることを期待しています。また、この静大理学部はいつまでも皆さんの母校であるわけですが、単に心のすみに母校として残っているだけでなく、いろいろな機会に母校を訪ねて頂きたいと思ひます。さらに同窓会ができたのですから、その組織を通じて同窓生の方々と理学部とのつながりが深くなることを念願しております。

諸君の協力をおおきながら一歩一歩よりよい同窓会にしていきたいと思います。是非とも御協力下さいませようお願いします。最後になりましたが、名簿等に不十分な点が多々ありましたことをお詫び致します。またいろいろな面でお気づきの点やお考えがありましたら気軽に本部まで御連絡いただければ幸いです。総会は四年に一回以上、オリピック開催年と同じ年になることと思ひます。次回は是非多数御出席下さいませよう御願ひ致します。皆様方の御健康と御多幸をお祈り致します。御挨拶いたします。

今回、理学部同窓会の顧問を務めることになりました。私は昭和40年4月、静岡大学理学部が設置された時に発令され、以来今日に及んでいます。理学部数学科は4つの学科目、12人の教官と35人の学生定員として出発しましたが、昭和51年に修士課程が設置されて4つの講座となり8人の修士定員が加わりました。大きな変化はありません。しかし数学科の所在地は変わってきています。昭和40年4月から昭和43年7月までは静岡市大岩に在り、昭和43年夏に現在の日本平の裾の校地に移転しました。当時の理学部はA、B棟と放射研の建物だけで、数学はA棟6階西側に在りました。昭和52年5月に新しくC棟が建てられ、そのC棟6階と5階東側一部に数学科は移転しました。昭和60年度にC棟耐震工事が行われ、従来の部屋の外にC棟2階西側も数学科の部屋として使用可能の予定です。

学生に長く接していると、気質の変化を感じます。これは社会の変化に対応するものでしょう。「年々歳々花相似たり。歳々年々人同じならず。」の詩のように移り変わっていきます。しかしどのように変わるにせよ、若い学生諸君と共にいる事は、大変幸せな事です。物理学科 森 口 治 生 多忙のため、今回は失礼させてほしいとのことでした。

### 顧問挨拶

数学科 梅 沢 敏 郎



理学部同窓会時代は化学科の学生諸君の有機化学実験を担当させられたこともありましたが、理学部になつてからは主として生化学のことを考えておればよいようになりまして。しかし教養部の有機化学関係の化学概論を隔年に担当することになったので、其処で化学科以外の学科の学生諸君におつき合い頂いた次第です。昭和三十五年以来、負うた子に教えられの連続だったように思います。静岡大学に長いこと居ますと、静岡大学の卒業生は優秀だということを知ることが多くなつてきます。皆さんが一歩一歩前進されることを願ひいたします。

化学科 下 村 道 夫



私は昭和三十五年度から静岡大学にお世話になつてい

地球科学科 黒 田 直



生物学科 和 田 清 美



同窓会々報の第一号発行おめでとう。私は昨年まで

